幅の中央に合せて紐附けの折より2cm淺き所を捻糸で芯と共に半返に縫ひ附けた後，中の縫込を平にして芯に綴ぢ附け，裏を絎け附ける。

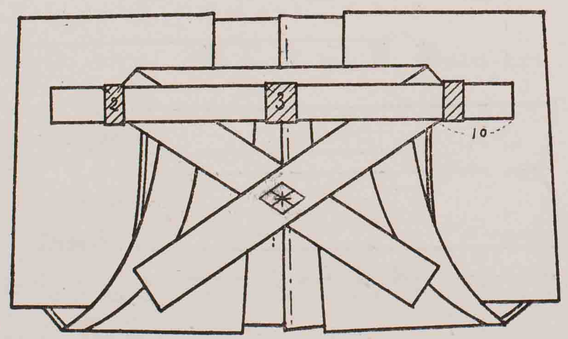
若し丈長くして縫込の多い時は前紐の時と同様になす。

9 仕上

白布に霧を吹いたものを當てゝアイロンをかけて全體をよく落着け，圖の様に疊み，後紐は重つた所を白の絹糸で綴ぢ，前紐は腰幅より10cm程出して左右の紐を折り重ねて両端を2cm中央は3cmの封をする（或は簡單な飾綴にてもよい。）

疊み上げた圖

第百二十三圖



『備考』裾布を附ける場合

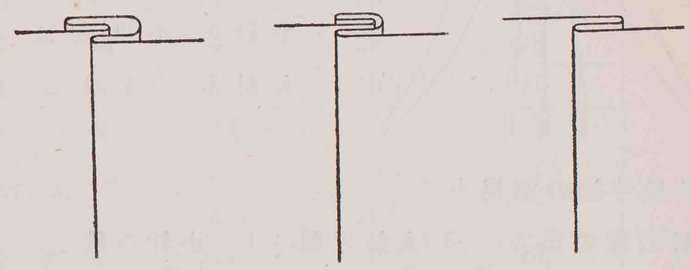
裾の落付きと滑りをよくする爲に表の地質に應じて甲斐絹，メリンス，新モス等を並幅或は三割にして裾に附けることもある。

附方　表布と裾布とを1cmの縫代にて縫ひ合せ，折りは裾布の方へ返し，表を裏に0.5cm乃至0.8cm返し裾布の上部を絎代だけ折つて絎け附ける。

中襞の種類

第百二十四圖

重襞　諸襞　片襞



(1) 重襞　各襞の深さが一様になり，襞の落着きよく，布幅が充分ある時は，この方法がよろしい。

(2) 諸襞　之は裾幅には關係しない。方法は簡單なれど中襞が重なりて厚くなり，毛織物等は落着きが悪いので女袴には不適當。之は乘馬袴に用ふる。

(3) 片襞　總布幅が狹い場合に，この方法になす。

後紐飾

(1) 太白糸二本を用ひて雄針雌針に飾縫ひをする。

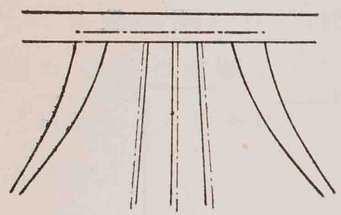
(2) リボン等を用ひて飾縫する。

(3) レースタッチング等を飾りとして縫ひ附ける。

飾紐の附方

(大人物)

第百二十五圖



大人物は大針4. 小針5. 小供物は大針3. 小針4.

針目寸法の割出方

小針の數の出方……3 (大針の數)+1 = 小針の數
　　4　　13

大針の長さの出方……(腰幅 − 小針の長さ × 小針の數 −
　　30cm　1cm　13cm

大針の數 = 大針長さ
4　42cm

飾紐を附ける場合は,紐を附ける前に,紐の中に腰紙を入れて綴ぢ,下より1cm程上つた處にて腰紙をも通して縫つて置く,即ち腰紙に針目の標を附けその標通りに左撚右撚の太白糸を通し,始めと終りとは糸を少々長くして腰紙に縫ひ附ける。

第二十二章

中裁・小裁女袴

普通仕立上寸法

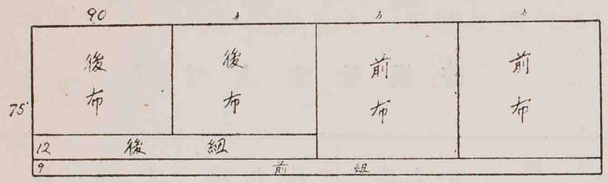
單位cm

各部名稱＼年齢		五・六歳	八・九歳	十二・三歳	十五・六歳
紐下		50	57	63	76
相引		33.5	38	45	50.5
後幅		24	26	28	29
後脇幅		18	19.5	21	22
重襞		2.5	〃	3	〃
後寄襞幅	上	3	3.3	3.5	3.6
	下	6	6.5	7	7.2
後腰幅		24	26	28	29
後笹襞幅		4.5	5	5.3	5.5
前脇幅		14	15	16.3	17
前寄襞幅	上	2.4	2.6	2.8	2.9
	下	4.8	5.2	5.6	5.8
前腰幅		26	28	30	31
前笹襞幅		3.5	3.8	4.1	4.3
後紐	丈	130	150	30	180
	幅	4	4.5	4.1	5
前紐	丈	230	260	170	300
	幅	2.5	3	5	3.5

裁方積方

幅　75cm　（十五六歳用）

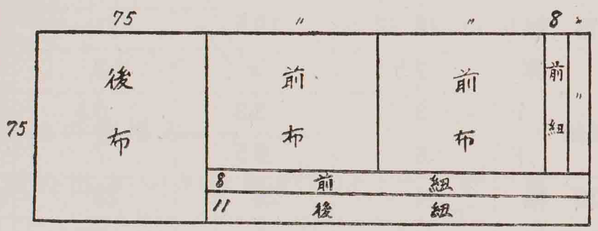
第百二十六圖



布丈×4＝總用布

幅　75cm　（八九歳用）

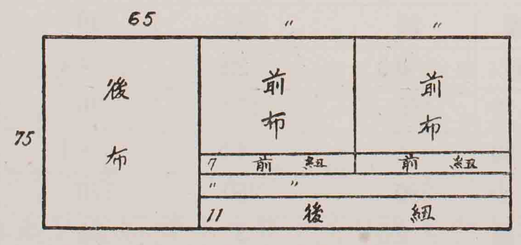
第百二十七圖



3布丈＋2前紐幅＝總用布

幅　75cm　（五六歳用）

第百二十八圖



後布丈×3＝總用布

標附方及び縫方は大裁女袴に準ず。

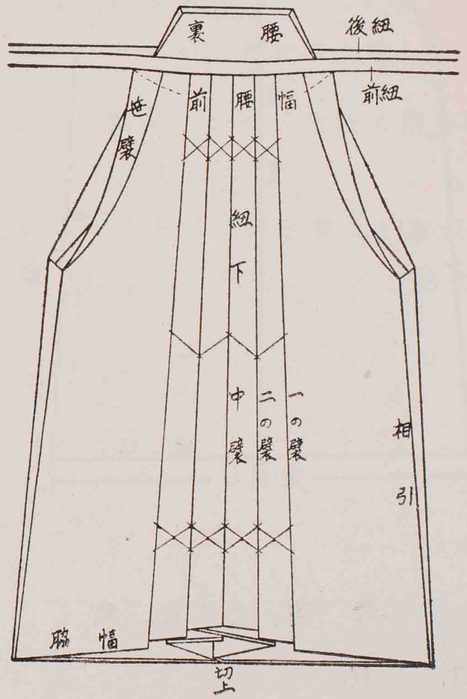
第二十三章

男袴

各部の名稱

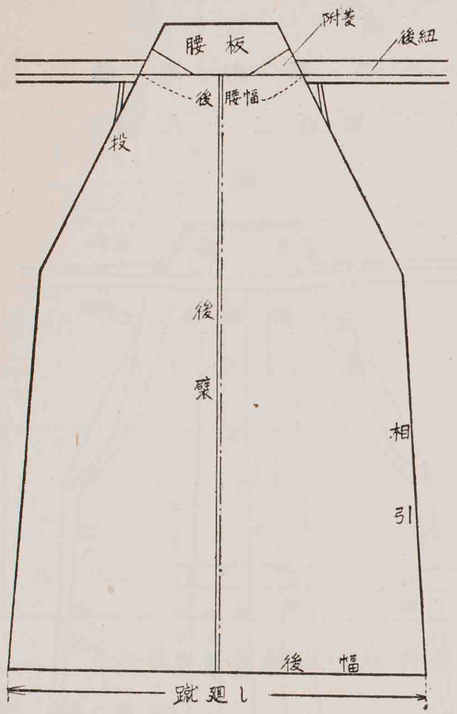
第百二十九圖

前



第百三十圖

後



男袴の種類

大裁，中裁，小裁，

地質及び布の幅と丈

絹織物　仙臺平．博多平．五泉平．紋織平．塩瀬平．郡内平．茶宇平．八王子平．嘉平冶平．精好平．山邊里平．村山平．兩面平．(無双平)紬平．絽．紗．絽紬．等

以上の幅は 40cm 内外．丈 900……1100cm.

綿織物　小倉．綿セル等

毛織物　セル．サージ．アルパカ等

『備考』以上の内に獨鈷といつて後紐の部分に紋織りで縞を織り込んだものもある。

無双平とは,表になる方には縞を表はし,裏の方には無地を表はして織つたもので.袷袴の代用となす。

各部寸法の割出方及び寸法表

單位 cm

各部名稱＼種類	大裁	寸法	中裁・小裁
紐下	着丈 × $\frac{6}{10}$ 又は＋2	83	着丈 $\frac{7}{10}$
切上	—	6	—
相引	紐下 × $\frac{2}{3}$	55	—
襠の高さ	紐下 × $\frac{2}{3}$ —10～14	41～45	紐下 $\frac{1}{3}$
乘間	胴廻 × $\frac{1}{3}$ ＋8	36～38	—
後幅	長着後幅と同寸又は＋2	30	長着後幅 ＋1～2
後重襞	—	上 4 下 2	—
後腰幅	後幅 × $\frac{3}{4}$ ＋2	24.5	—
腰板幅	上　下幅 × $\frac{2}{3}$	16.4	—
	下　後腰幅と同寸	24.5	—
腰板高さ	後腰幅 × $\frac{1}{3}$ ＋0.5	8.6	—
附菱幅	後腰幅 $\frac{1}{3}$	8.2	—
附菱高さ	腰板斜線 × $\frac{1}{2}$ ＋0.8	5.5	—
前腰幅	後幅と同寸又は＋2	30～32	後幅と同寸又は＋2
脇幅	後幅 × $\frac{3}{5}$ －0.5	17.5	—
寄襞幅	上　後幅 × $\frac{1}{10}$	3	—
	下　後幅 × $\frac{1}{5}$	6	—
笹襞幅	脇幅 × $\frac{1}{4}$	4.3	—
中襞幅	—	10～14	—
後紐丈	—	75～78	—
前紐丈	胴廻 × 3.5	320～340	—
紐幅	—	3	—

第二十四章

大裁襠有袴（馬乘袴）

種類

襠有袴（馬乘袴）袷・單・

襠無袴（行燈袴）袷・單・

裁方種類

八布遺・八布半遺（十番）十布遺・半十布遺・

これは用布の長短に伴ふ布數に依つて，名稱が違ふのである。

八布半遺（十番）襠有袴

裁切寸法の定方

1　後布丈……紐下＋切上＋裾絎代＋上部縫代
　　6cm　　2cm　　7cm～10cm

2　襠の高さ……仕立上寸法＋裾絎代

3　前襠丈……襠の高さ＋上部の刳り
　　8cm～10cm

4　附菱 { 丈　9cm位
　　幅　13cm位

裁方積方

幅　40cm　總用布 940cm

附圖　第百三十一圖參照

{總用布－(前襠丈＋2腰布＋後紐丈)＋裁交}÷8＝後布丈

着丈に依る積方

紐下＋切上＋裾紵代＋上部縫代＝後布裁切丈

8後布丈＋前襠丈＋2腰布＋後紐丈－裁交＝總用布

裁　交
- 後　襠　1cm × 2 ＝ 2cm
- 脇　布　3cm × 2 ＝ 6cm
- 奥　布　3cm × 2 ＝ 6cm

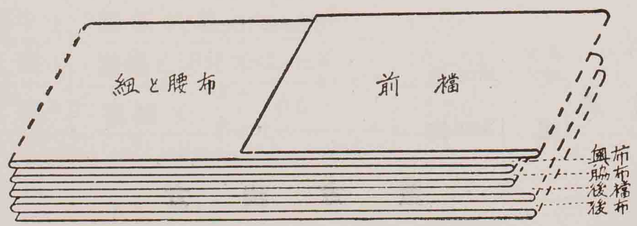
裁交とは後布丈の寸法を基礎としそれに後襠及び脇布、奥布の丈を比較し其の差を合計したものを言ふ。

裁切方

用布を中表に次の圖の様に折り疊み一應よく調べて後に裁ち切る。

折り疊み方

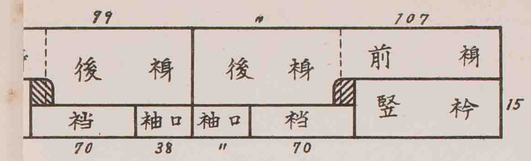
第百三十二圖

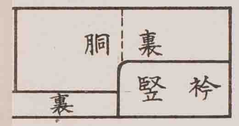


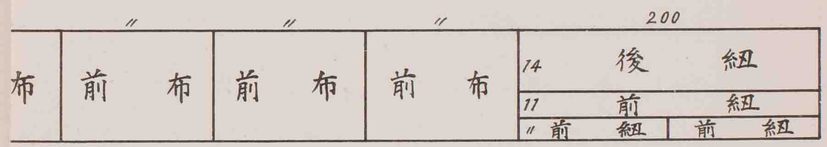
1　後布丈……二枚

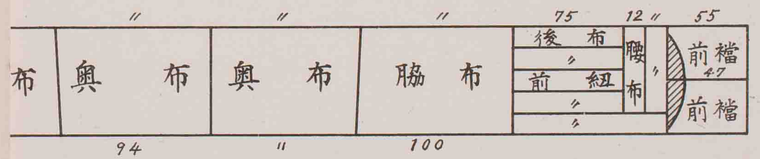
2　後襠丈……後布丈より1cm短く二枚

3　脇布丈……後布丈より3cm短く二枚









後布丈

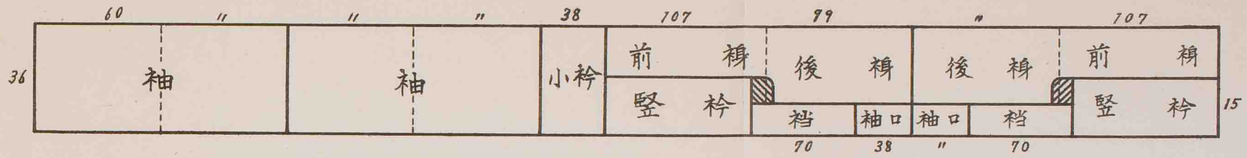
用布

び脇布,

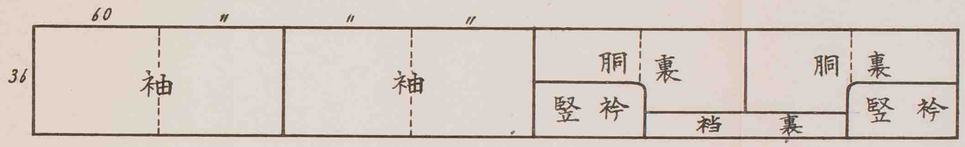
調べて後

布布檔布
風脇後後

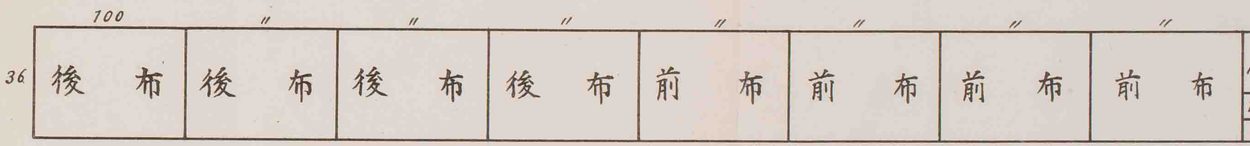
第九十八圖



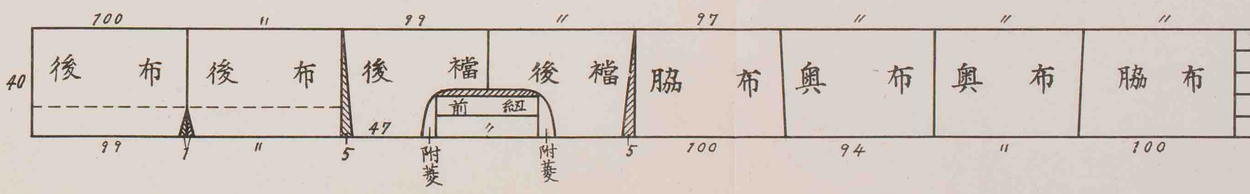
第九十九圖



第百十四圖

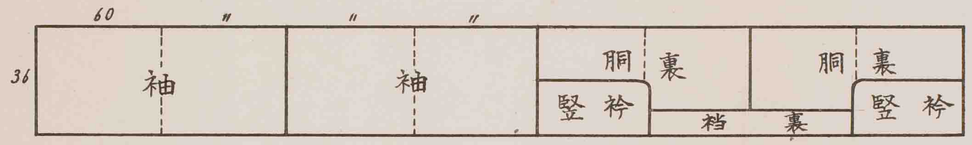


第百三十一圖



第九十八圖

第九十九圖



第百十四圖

第百三十一圖

4 奥布丈……後布丈より3cm短く二枚

5 紐布及び腰布

6 前襠布……一枚

順　序

1 後布二枚を後襠との境から切る。

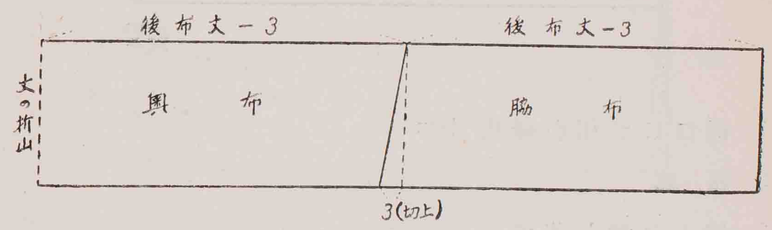
2 後襠と脇布との間を切る.

3 奥布と紐布との間を切る(脇布と奥布とは續けて置く。

4 前襠を切り離す。

脇布と奥布との裁切方

第百三十三圖



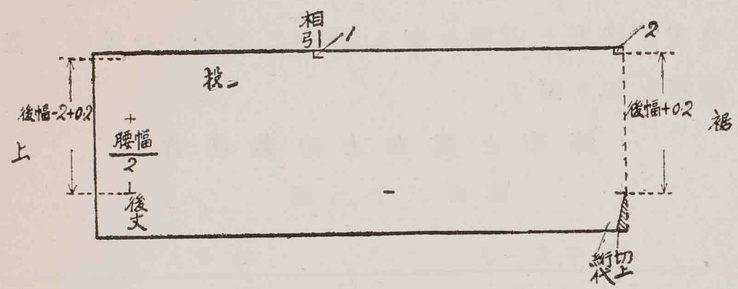
脇布と奥布と續いたまゝ布を丈二つに折り,其の中央を定め(圖の中央の點線)圖の如く3cmの切上を附けて裁つ。

標附方及び乘間の刳り方

後　布

中表に二枚合せ裾口を右にしてをく。

第百三十四圖



1　裾口にて相引縫代 (1cm)

2　後　幅

3　切上を裁ち落す

4　裾紐代 (2cm)

5　後　丈 (紐下＋切上)

6　相引及び相引縫代

7　後　幅

8　投

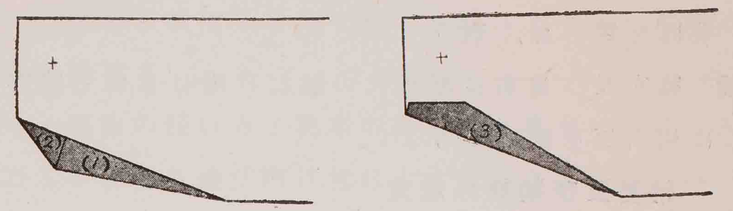
後布標附方別法

後布の左右の襞山を眞直にして重なりを 3cm 乃至 4cm 上下同寸にする事もある。

投の折方

第百三十五圖

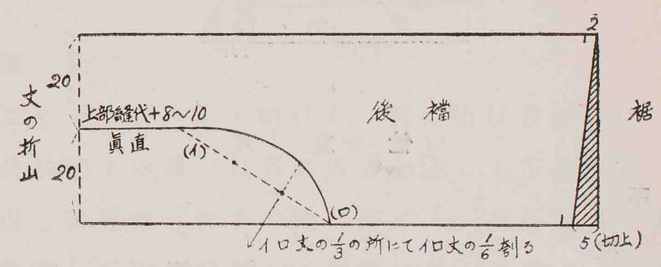
(其一)　(其二)



後襠の裁方

後襠の丈を二つに折り輪を左にして置く。

第百三十六圖



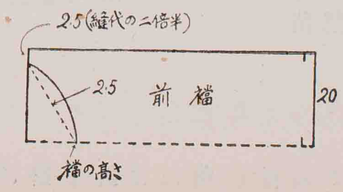
1　裾紐代(2cm)　　3　刳り上部の幅(乘間－前襠幅)

2　襠の高さ　　4　乘間を圖の如く刳る。

前襠の刳り方

半幅に折つて圖の如く置く。

第百三十七圖



1　裾絎代(2cm)

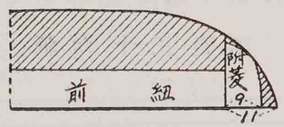
2　襠の高さ。

3　乘間を圖の如く刳る。

『**意注**』脇布及び奥布は裾絎代の標だけ附ける,但し脇布には相引標を附けてもよい。

附菱及び前紐の取方

第百三十八圖



仕立方

順序

1　投
2　各布縫合
3　裾絎
4　乘間
5　襞取
6　相引
7　笹襞及び門留
8　壓
9　前後紐絎
10　後腰立
11　前紐附
12　仕上
13　疊方

方法

1　投

後布の投を伸さぬ樣に,角には針を掛けて目立たぬ樣

左右の針目を揃へて絎ける。(針目 2cm 内外)

2　各布縫合

(イ)　後布と後襠とを合せ,裾より縫ひ上げて後襠の方に折を附ける.

(ロ)　脇布の短い方と奥布の長い方と,奥布に前襠の長い方とを合せて縫ひ附け,何れも丈短かき方に折を附ける。

(ハ)　前後の襠を縫ひ合せて前襠の方に折を附け,縫代の端の方に針目 2cm 位にして伏縫をなす(耳絎にする事もある)

3　裾絎

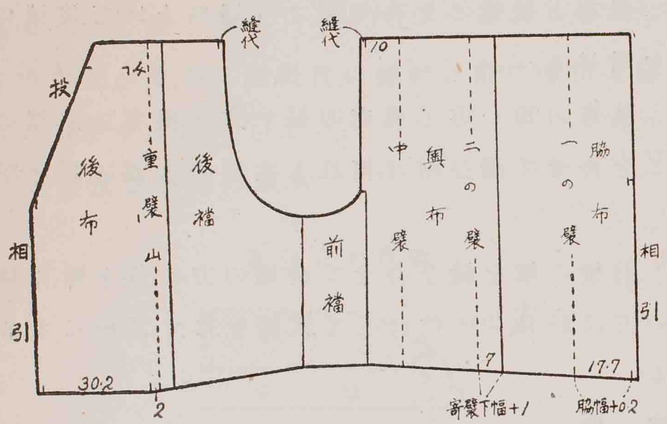
裾口を三つ折にして絎ける。其の絎け方は針目1cm位とし,後幅切上の處では眞直の方を上にして襞を取りて一針返し,斜の處を伸さぬ樣に絎ける。尙各縫目の處では一針返して絎け,兩端 5cm 程絎け殘して置く。(左右共同じ)

4　乘間

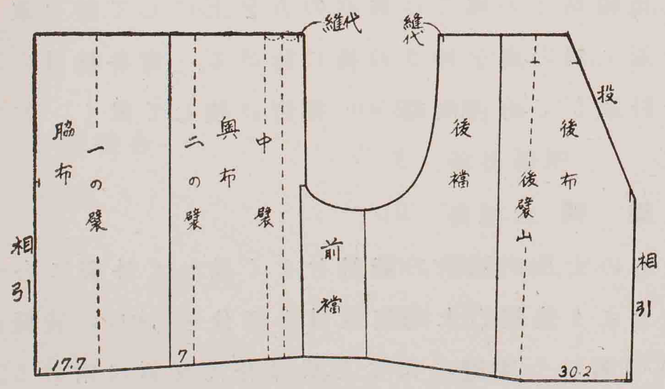
左右の丈及び襠附の縫目をよく揃へて外表に合せ,前襠の上より後襠の上端迄裁目の部分を0,4cmの袋縫ひにし,耳の處は一度縫ひになし,折は脊と反對に附ける。

5　襞取

第百三十九圖　襞山の定方（其一）（左脚）



（其二）（右脚）



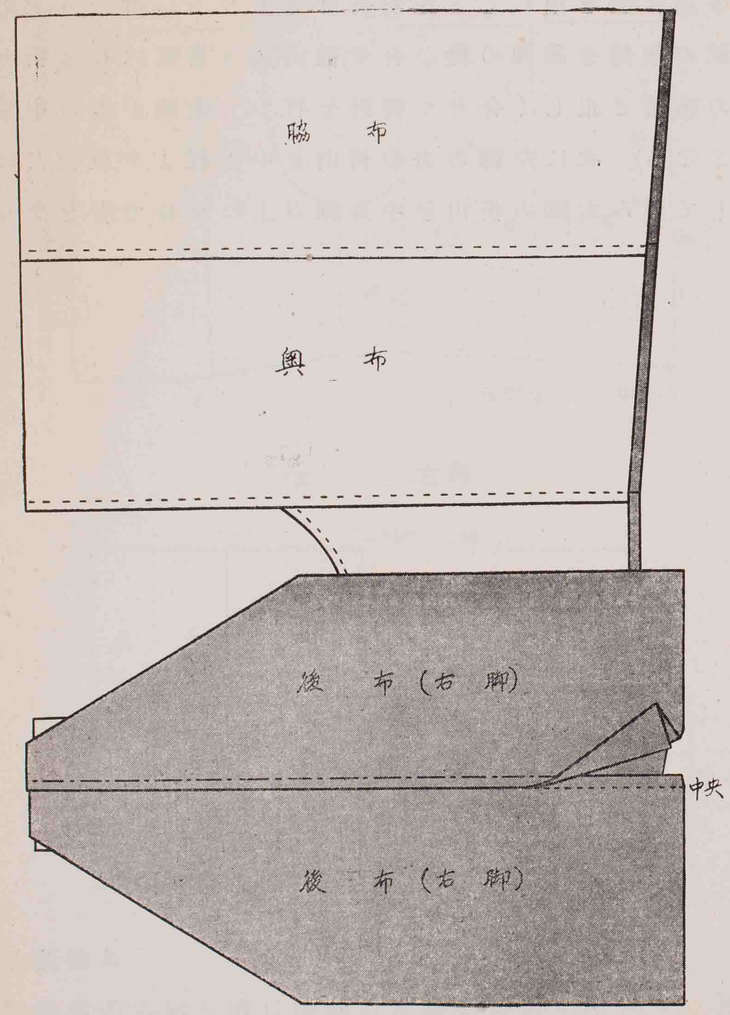
後襞取

後布の右脚の方は後幅の標通りに折を附ける。（其の折山は 2cm 曲ることになる）後布の左脚の方は後幅の

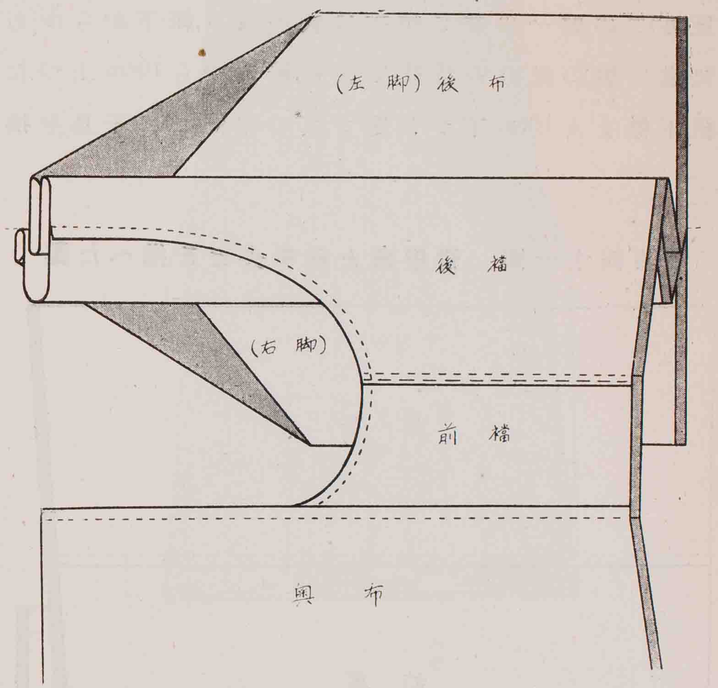
標より上は 4cm 下は 2cm 幅を廣くして折を附ける。其の折山は眞直になる。裾を右に,前の方を向ふに,後の方を手前に,表を中にして左右合せたまゝ下に置く。上の一枚の後襠を乘間の縫ひ合せ(被山)通り眞直に裾迄折り,下の後襠と正しく合せて待針を打つ,（此線が後の中央線となる)。次に左脚の方の折山を中央線より重代だけ出して疊み,右脚の折山を中央線の上に重ねて躾を掛ける。

第百四十圖　後襞取圖

（其一）　表



（其二）　裏



前襞取

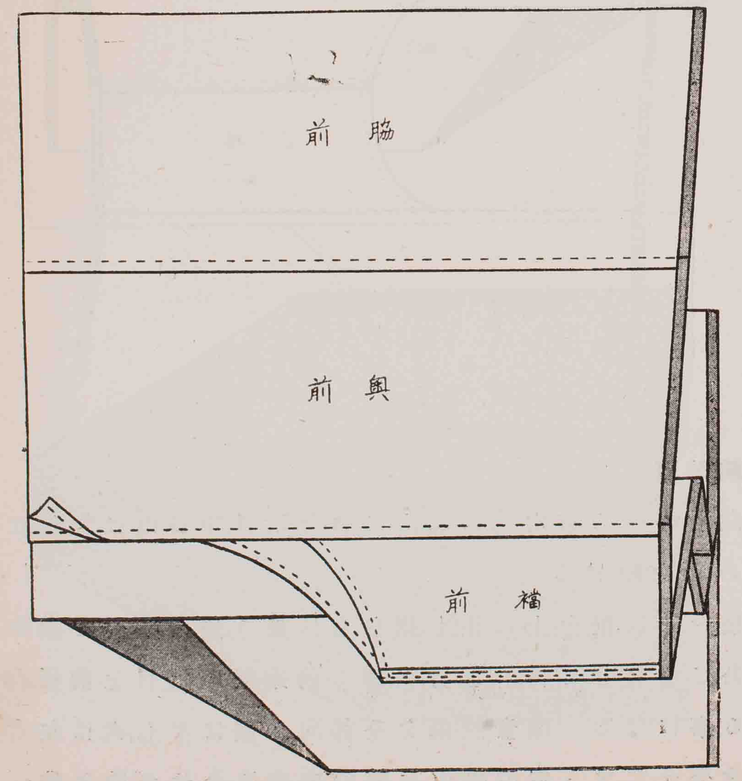
左右の一の襞山二の襞山に折を附け,中襞山は左脚にのみ折を附ける。

後を下に,前を上に出し,裾を右に置き,後の中央と前の中央とを合せて待針を打つ,即ち前乘間の縫目を前後合せる事になる。(圖參照)前を全部向ふ側になし,次に左右二枚合せたまゝ中の襞山を前の中央に合せて中を整へ

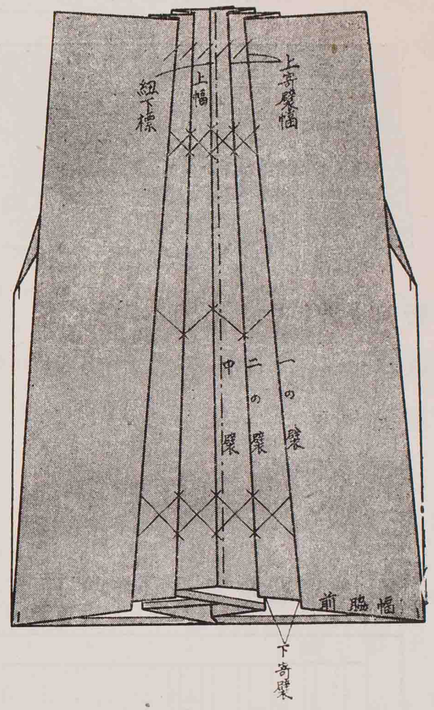
中襞山に躾を掛ける。

中襞山にて紐下の標をなし,紐下は表の短き處より上に度る)二の襞一の襞と順次に襞を取り,紐下から少し上つた處で襞の亂れぬ樣躾で止め,裾口から10cm上つた處と,紐下標より10cm下つた處と,其の中間とに千鳥を掛ける。

第百四十一圖　後中央と前中央とを揃へた圖



第百四十二圖



6　**相引合及び裾衍始末**

寄襞の形を崩さぬ樣相引を縫ひ合せ,折は前の方に附け,裾衍の殘りを衍ける。

7　**笹襞及び閂留**

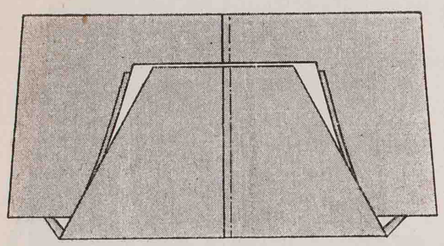
女袴と同樣

8　**壓**

相引の中央から2cm上つた處に尺度を入れて裾口を折り返し,裾口から2cm離して上部を折り返し,壓を

置く。

第百四十三圖

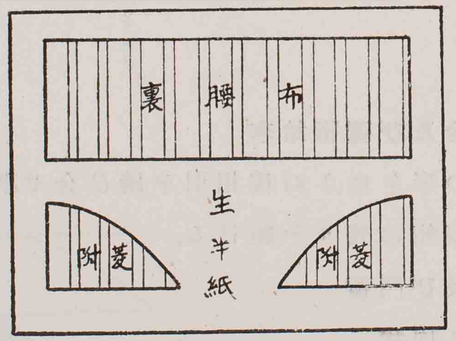


9　前後紐衿

後前の紐に芯を入れ,前紐は中央40cm位,後紐二本は其の各一端を 8cm づゝ殘して衿け置く。(芯は表側に入れる)

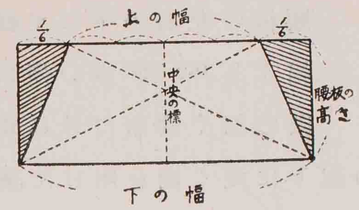
10　後腰立

第百四十四圖　**裏腰布及び附菱に裏打の仕方**



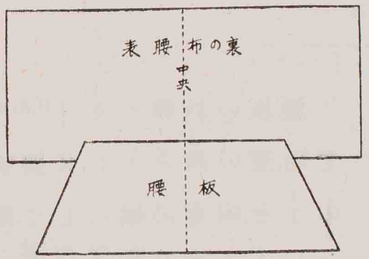
生半紙をよく揉み鏝にて伸ばし,裏腰布及び附菱の廻りに0.4cm位糊を附けて貼り附け,乾いてから布の通りに半紙を切る,

第百四十五圖　**腰板の裁方**



両端で幅の $\frac{1}{6}$ 裁ち落す

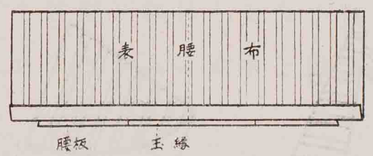
第百四十六圖　**表腰の貼方**　(其一)



腰板の裏の上部に0.5cmの深さに糊を附け,表腰布に貼り附けて,腰布を折り返す。

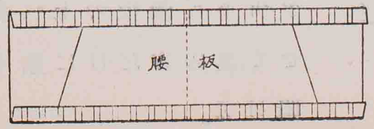
(腰布の縞目を両端で揃へる樣に注意する)

(其二)



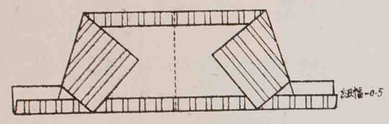
腰板の表面の下部に,淺く糊を附け,腰布を曲らぬ樣に貼り腰板の下部から 0.2cm 離して,布を上に折り返し,よく折を附け,紙捻に糊を附けて入れる。(紙捻は生半紙を幅2.5cm位に裁ちて堅く捻り丈は11cmにする)

(其三)



腰板裏面の下部に,糊を附けて,腰布を裏の方に貼り附ける。

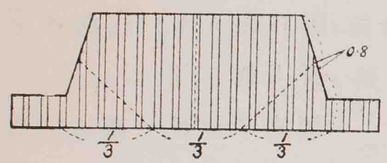
（其四）



腰板の左右の下にて紐幅より0.5 cm少い所に圖の如く腰布だけに切込を入れ,切込から上は,腰布の廻りに淺く糊を附けて,腰板の方に貼り附ける。

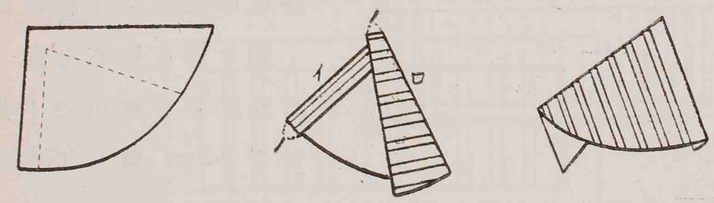
第百四十七圖

附菱の附方（其一）

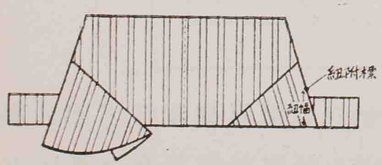


腰板の斜線の$\frac{1}{2}$+0.8cmを附菱の高さとし,又腰幅の$\frac{1}{3}$を附菱の幅にして,圖の如く糸標をする。

（其二）



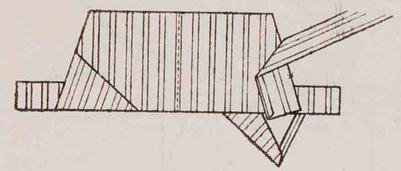
（其三）



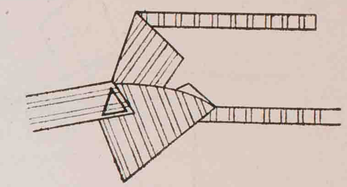
附菱を糸標の恰好に合はせて,イを折り次にロを折りて,腰板の上に載せて,裏の方だけに貼り附ける。

第百四十八圖　**後紐の附方**

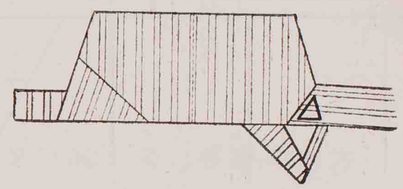
（其一）



（其二）



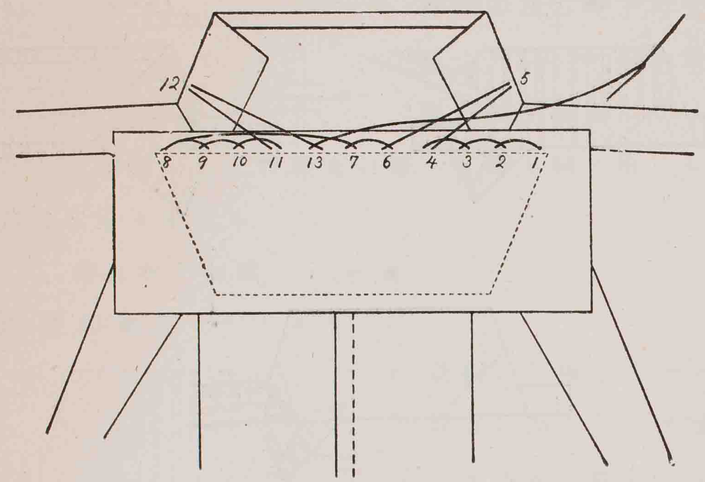
（其三）



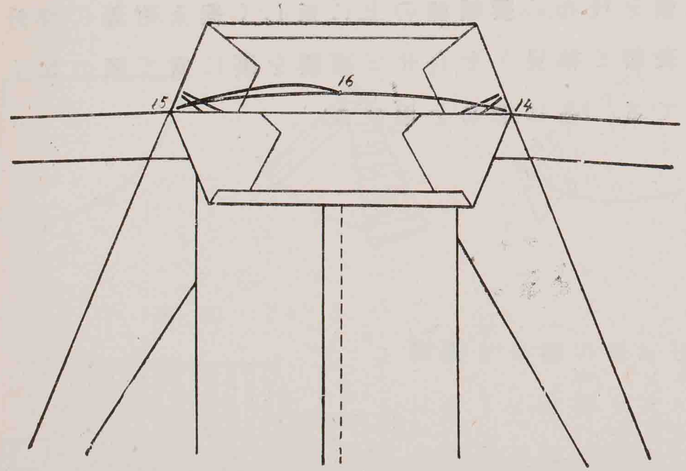
腰の立方

表腰を後布の腰幅標の上に正しく据ゑ,附菱に待針を打ち,表腰と縞目とを合せて裏腰を裏に當て圖の如く腰を立てる。（糸は捻糸を用ひる）

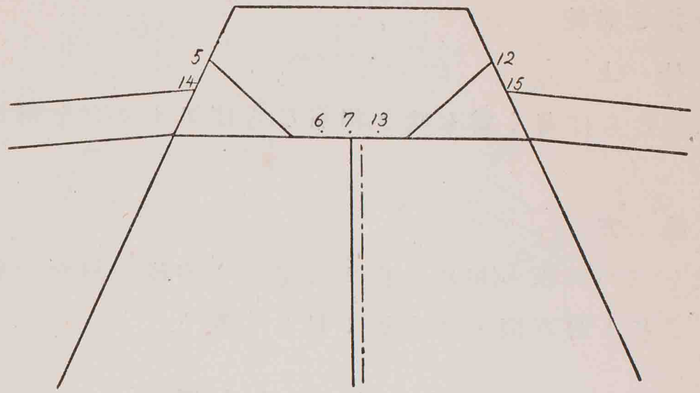
第百四十九圖 腰立糸の掛方（其一）



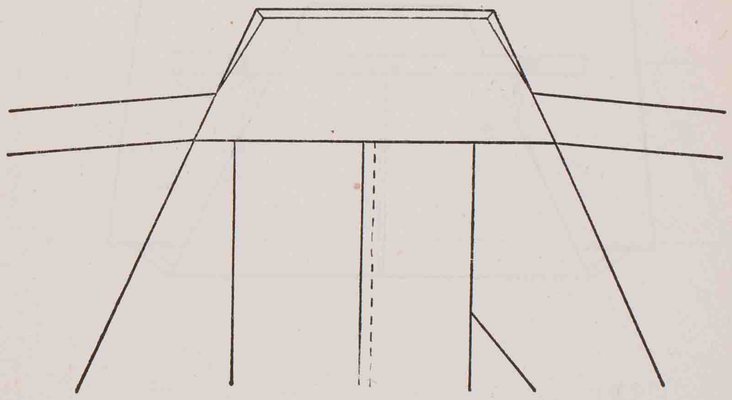
（其二）



（其三）



第百五十圖 裏腰の貼方



裏腰布貼附方

裏腰布を上の方で0.4cm控へて,幅を先に,丈を後に折つて貼り附ける。

11　**前紐附**

女袴と同樣

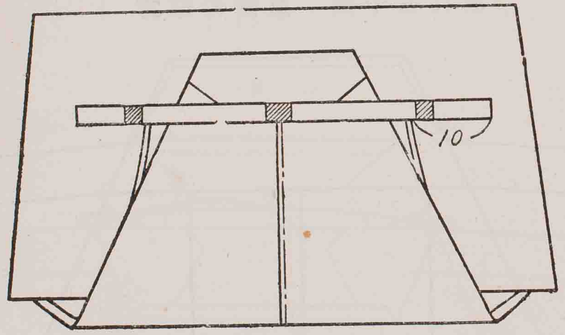
12　**仕　上**

綿布ならば薄く霧を吹き,絹布ならばアイロンを掛ける。

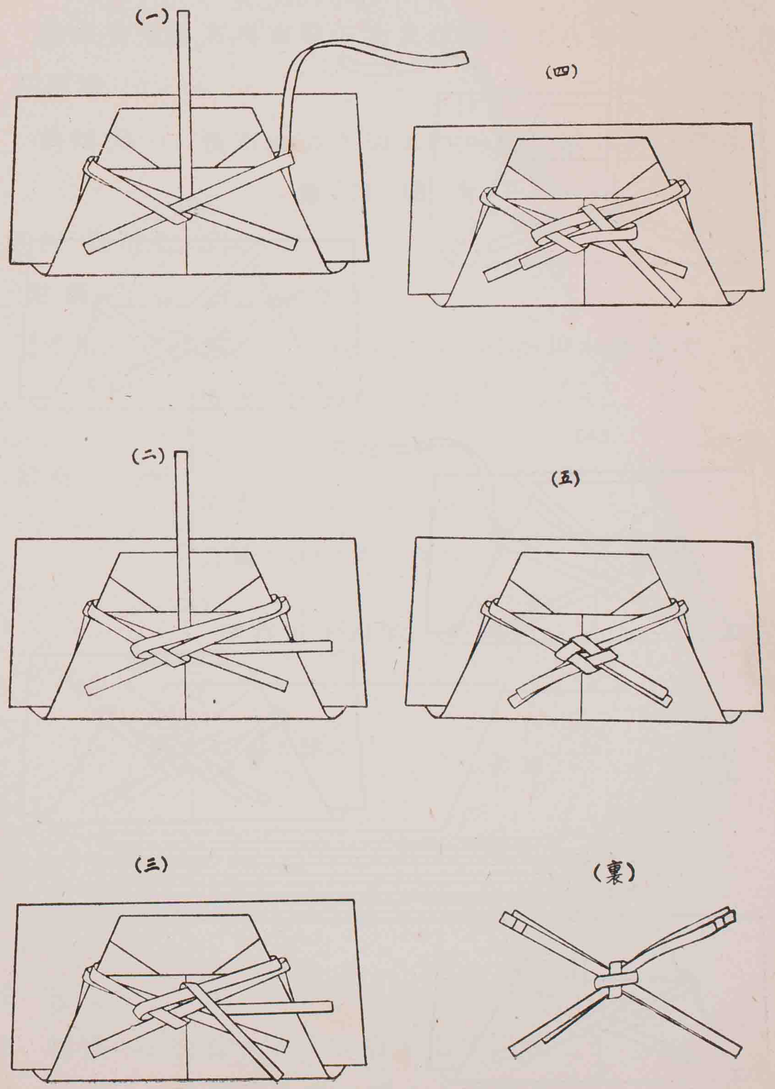
13　**疊　方**

丈を三つに折り(初めに折つた處から)前後の紐を一緒にして折り疊み圖の如く紙で封じて置く。

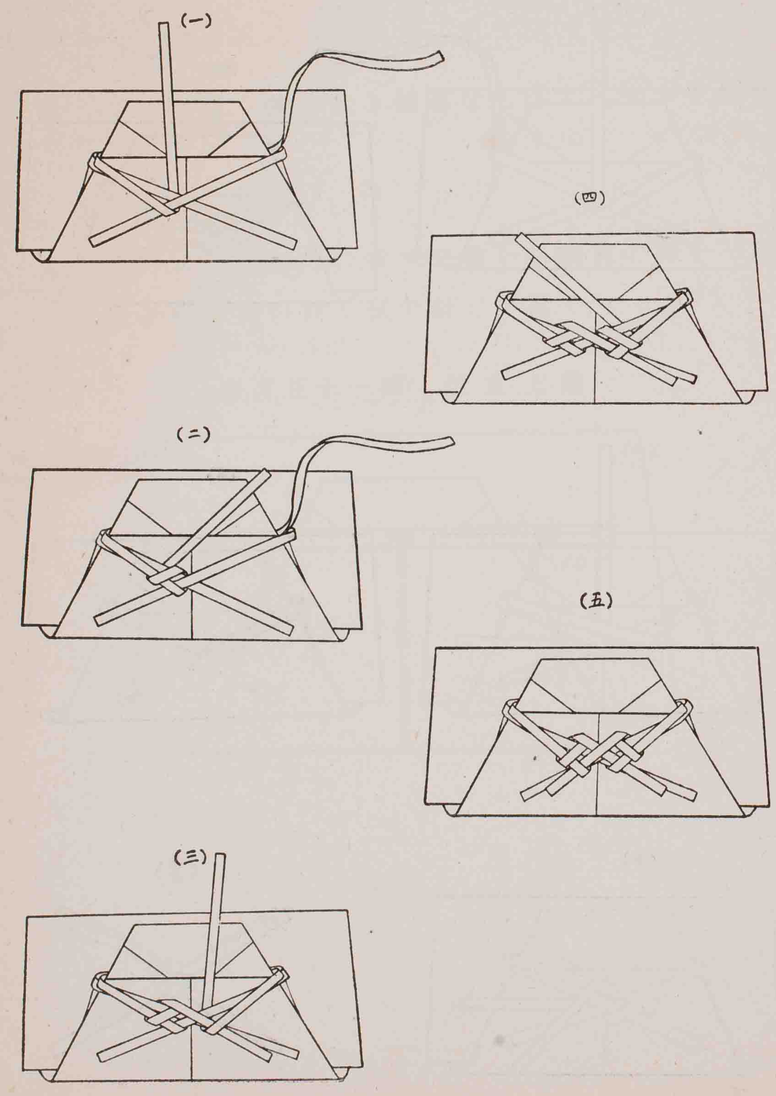
第百五十一圖　**仕立上圖**



第百五十二圖　**紐の疊方**（其一）



（其二）



十布遺襠有袴

裁切寸法の定方

後布,後襠,脇布,奥布等の丈及び切上は八布半遺襠有袴と同様

前襠丈……後布丈より切上(6cm)だけ減じ裾口は眞直

裁方積方

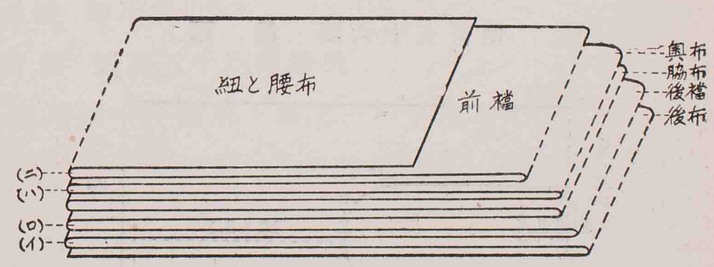
並幅　總用布1038cm

附圖　第百五十三圖參照

{總用布－(2腰布丈＋紐丈)＋裁交}÷10＝後布丈

裁交　26 cm
- 後襠　1cm×2＝　2cm
- 脇布　3cm×2＝　6cm
- 奥布　3cm×2＝　6cm
- 前襠　6cm×2＝12cm

第百五十四圖　**折積方**



1　後布……二枚

2　後襠……後布より1cm短くして二枚

3　脇布……後布より3cm短くして二枚

4　奥布……後布より 3cm 短くして二枚

5　前襠……後布より 6cm 短くして二枚

6　紐布……50cm 乃至 55cm とる

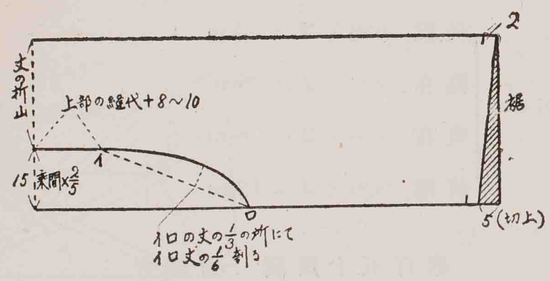
裁切順序

(イ)(ロ)(ハ)(ニ)と符號の通り。

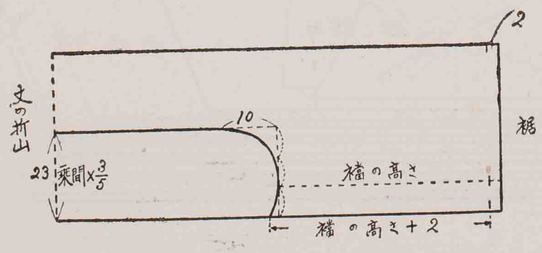
標附方及び乘間の刳方

後布は八布半遺襠有袴に同じ

第百五十五圖　後　襠



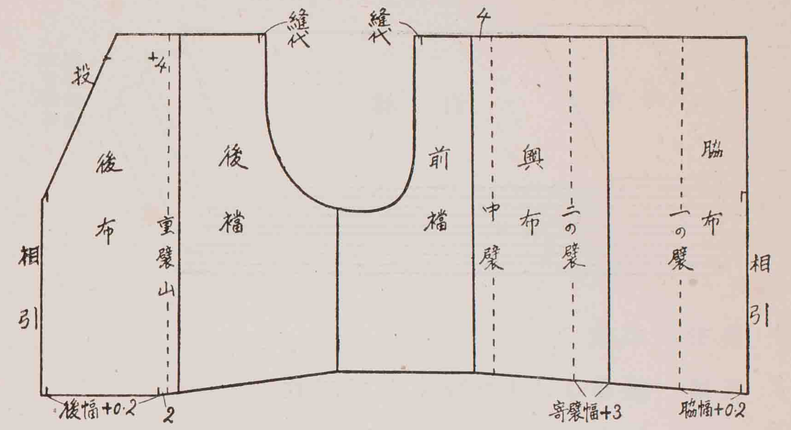
第百五十六圖　前　襠



仕　立　方

縫合方は,八布半遺襠有袴に同じ.

第百五十七圖　襞山の定方(左脚)



右脚は後の重りがないのみで,其の他左脚と同様. 他は八布半遺襠有袴に同じ。

半十布遺襠有袴

裁方積方

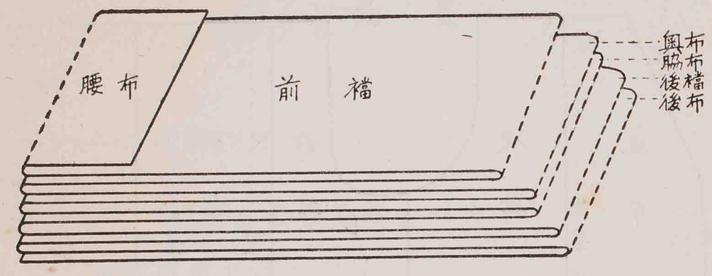
並幅　總用布 988cm

附圖　第百五十八圖參照

(總用布 − 2 腰布 + 裁交)÷10 = 後布丈

裁交 26cm
- 後襠　1cm × 2 = 2cm
- 脇布　3cm × 2 = 6cm
- 奥布　3cm × 2 = 6cm
- 前襠　6cm × 2 = 12cm

第百五十九圖　折積方



1　後布　二枚

2　後襠　後布より1cm短くして二枚

3　脇布　後布より3cm短くして二枚

4　奥布　後布より3cm短くして二枚

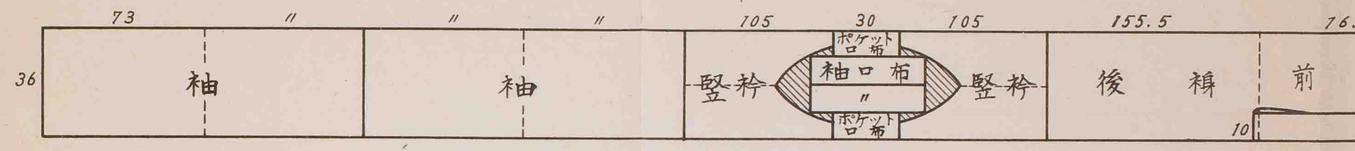
5　前襠　後布より6cm短くして二枚

6　腰布　24cm 一枚

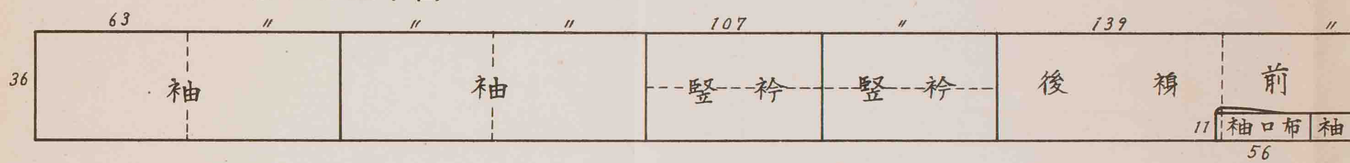
標附方及び乘間の刳方

後襠及び前襠の刳方は,布幅が狹いのみで十布遺襠有袴に同じ。

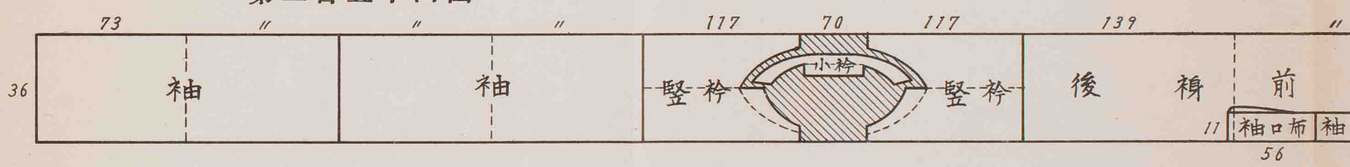
第二百三十五圖



第二百五十圖

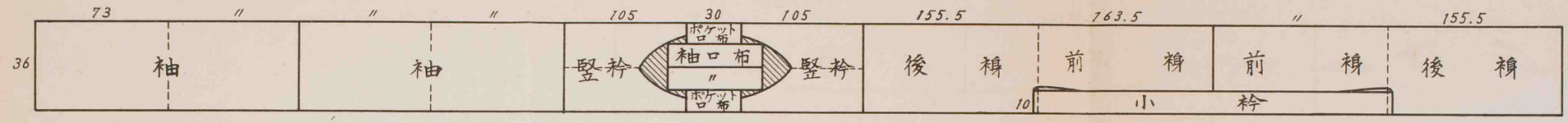


第二百五十四圖

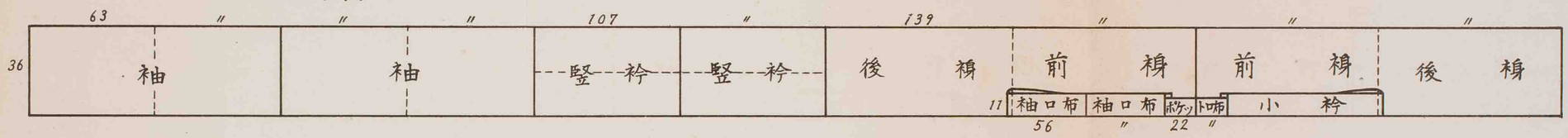


第二百五十七圖

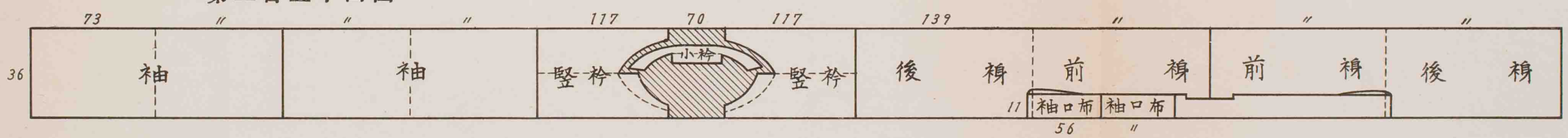
第二百三十五圖



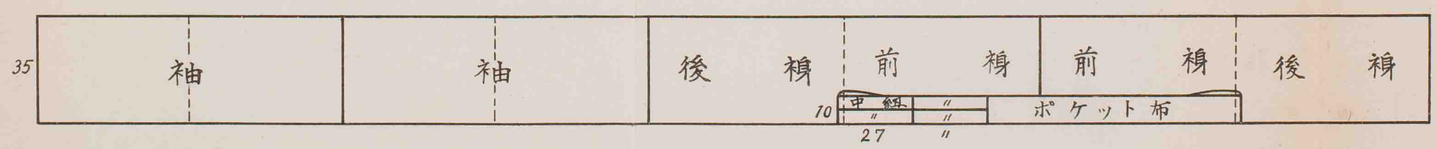
第二百五十圖



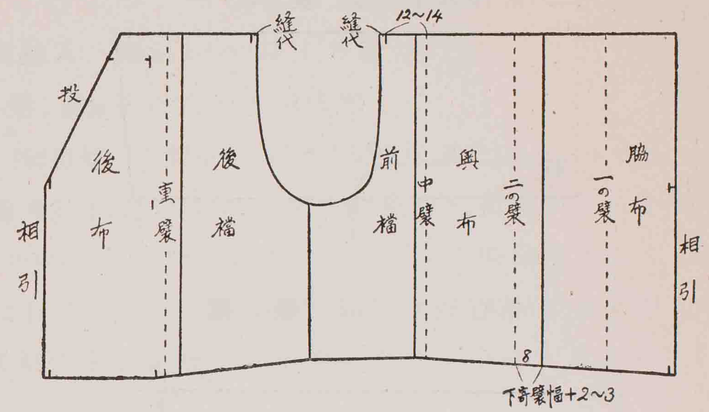
第二百五十四圖



第二百五十七圖



第百六十圖　襞山の定方(左脚)



右脚は後の重りがないのみで,其の他左脚と同様。

『備考』前記半十布遺の裁方にして紐丈不足の時は脇布に續けて紐を落すか,或は前襠で紐を二本とる。

其の場合の乘間の刳方の割合は八布半遺襠有袴と同様。

八布遺襠有袴

(十六,七歳用に適す)

裁　方　積　方(切上5cm)

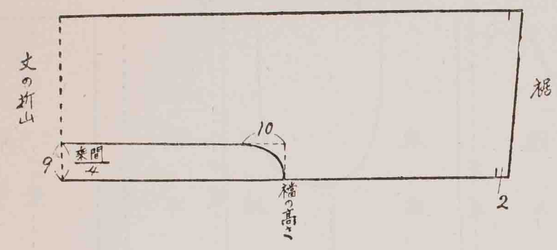
附圖　第百六十一圖參照

{總用布−(2腰布+後紐丈)+裁交}÷8=後布丈

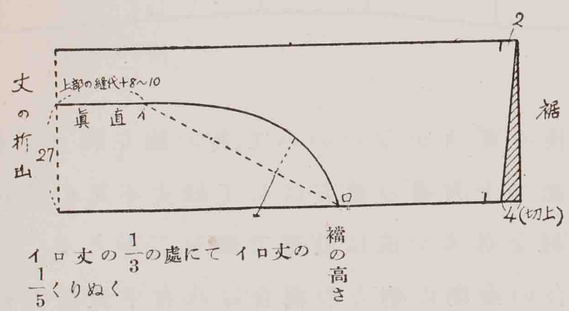
裁交 12cm
- 後襠　1cm × 2 = 2cm
- 脇布　2.5cm × 2 = 5cm
- 奥布　2.5cm × 2 = 5cm

標附方及び乘間の刳方

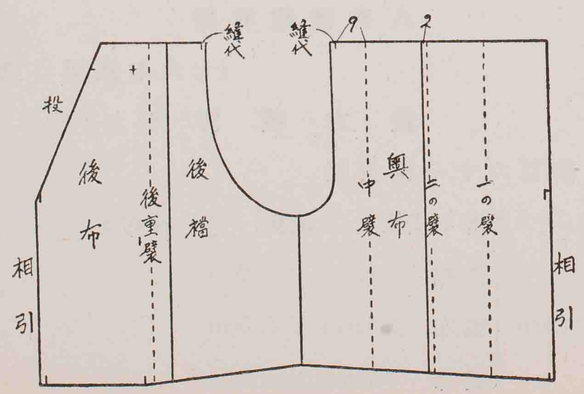
第百六十二圖　奥布



第百六十三圖　後襠



第百六十四圖　襞山の定方(左脚)



右脚は後の重りがないのみで,他は左脚に同じ。

各種裁方積方

獨鈷入　(獨鈷150cm以上の場合)

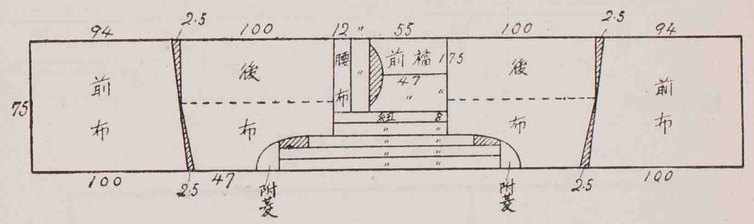
附圖　第百六十五圖參照

{總用布－(2腰布＋2前襠＋紐丈)＋裁交}÷8＝後布丈

『**備考**』獨鈷の長さは袴地に依つて相違があるが,凡そ150cm以上190cm餘りのものである,獨鈷の入りたる部分は後紐に用ふるを普通とするがも,獨鈷の丈の長い時は後紐に用ひた殘りを前紐の中央に用ひることもある。

幅75cm　總用布472cm

第百六十六圖

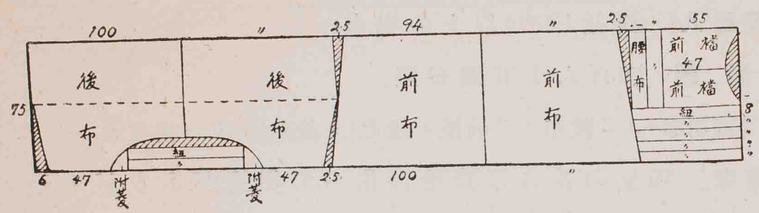


裁交(前布)　2切上－2殘布

{總用布－(2腰布＋前襠)＋裁交}÷4＝後布丈

幅 75cm　總用布 472 cm

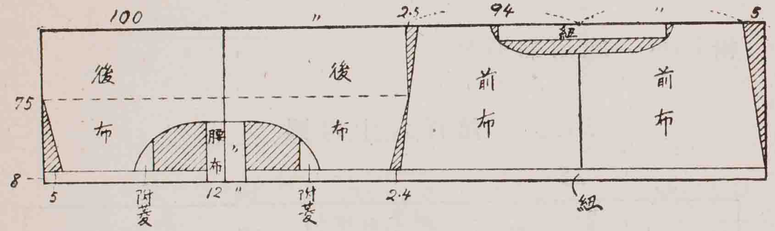
第百六十七圖



4 後布丈＋前襠丈＋2 腰布－裁交＝總用布

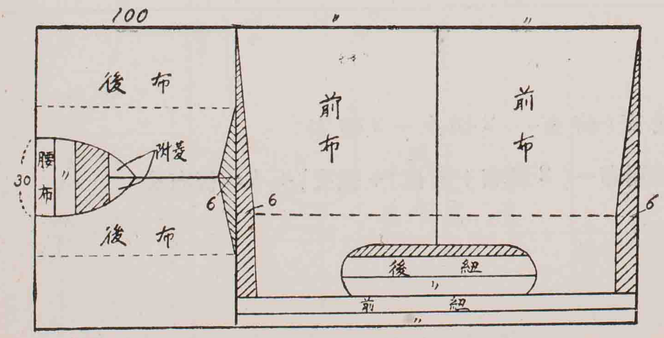
幅 75cm　總用布 3975cm (中裁に適當)

第百六十八圖

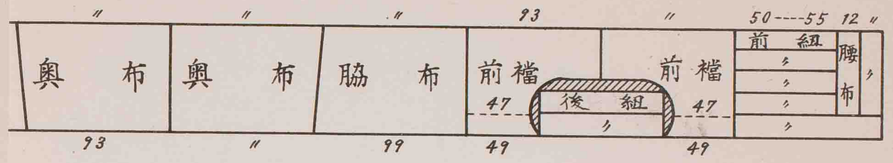


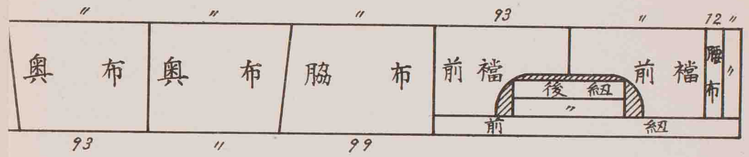
幅 136cm

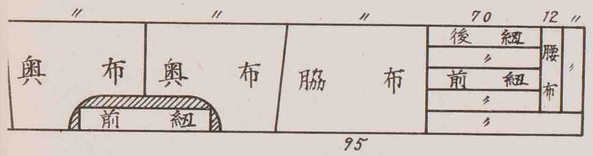
第百六十九圖

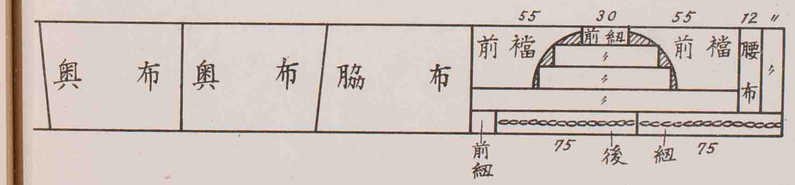


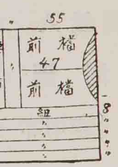
襠の劃方は半十布遺に同じ。

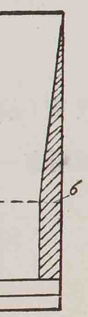




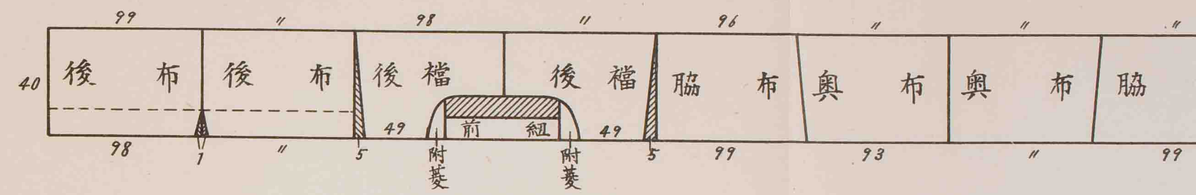




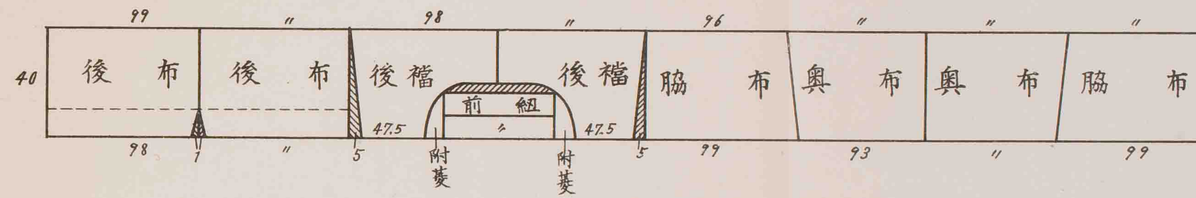




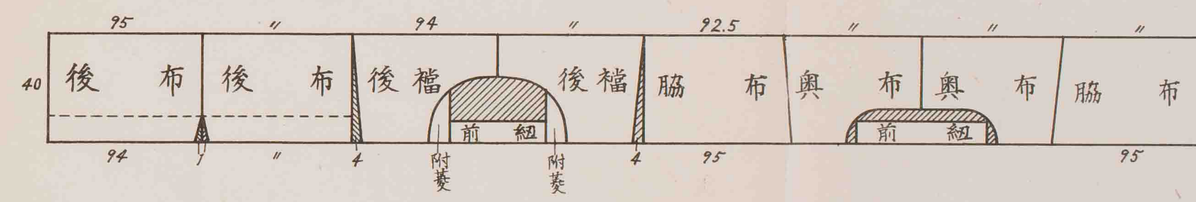
第百五十三圖



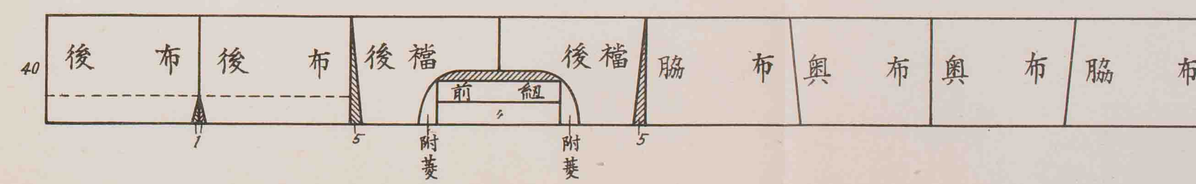
第百五十八圖



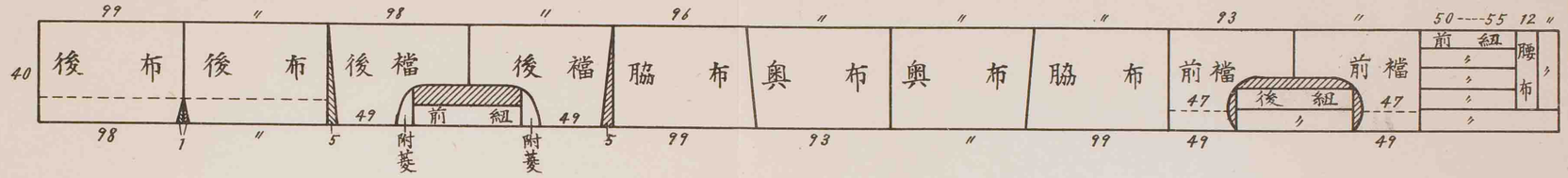
第百六十一圖



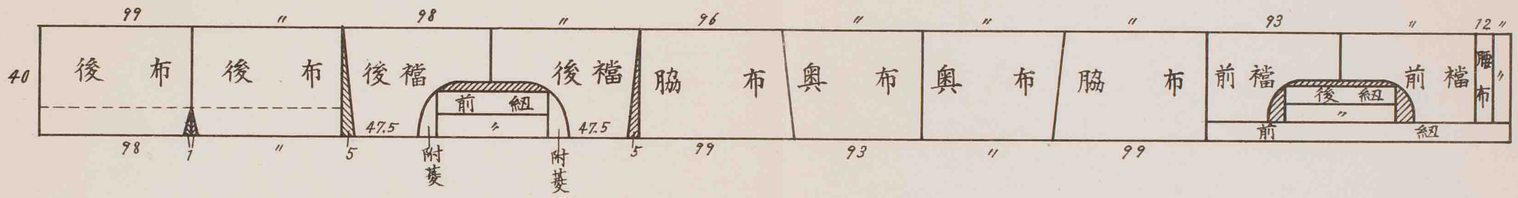
第百六十五圖



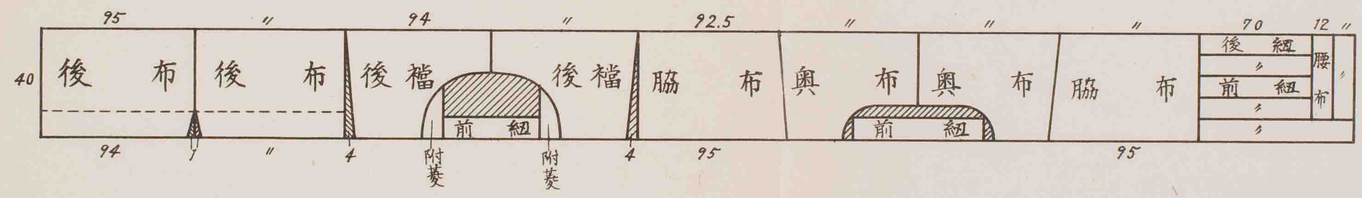
第百五十三圖



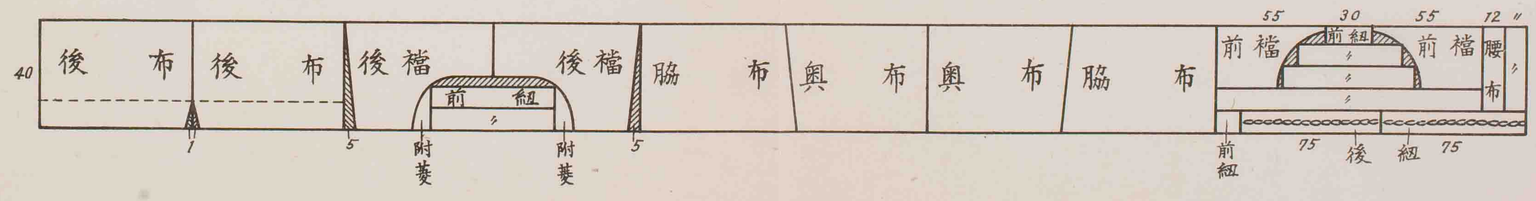
第百五十八圖



第百六十一圖



第百六十五圖



地質に依る男襠有袴の縫方注意

絹織物の場合（綿布と異る點）

（イ）絹布は綿布より稍小針に縫ふ。

（ロ）裾口に薄き紙又は布を入れる。

裾の斜が伸びぬ樣に又裾絎の出來上を美しくする爲に紙(生半紙)を揉んでよく伸したるものを幅1.9cmに切り，裾の裁目に揃へ紙と共に折つて絎ける。紙の代りに薄絹を入れてもよろしい。

（ハ）乘間の始末

乘間の縫代の爲に着物を損ずる事を避け,乘間の磨切を防ぎ,且つ滑りをよくする爲に甲斐絹の斜切にて縫代を包んで絎けるか或は眞綿を細く伸ばして乘間の縫代を包み千鳥の針を交互に眞綿にも掛けて縢つて置く。

（ニ）腰板角丸味

腰板の上角を感じよく且つ布の傷損を防ぐ爲0.6cm程の丸味を附けてもよい。

透織物の場合

總て變つた色が透かぬ樣に注意して仕立る。

（イ）裾口には生半紙の代りに表と共色の薄絹又は紺紙,新モス等の軟かいものを入れる。(紺紙,新モス等の厚きものは一枚芯にする)

（ロ）腰板は玉緣を入れて表と共色の布又は紺紙にて下貼せしものを用ふ。